

[プログラム]

- 主催：地域住宅計画推進協議会、大阪市
- 共催：豊かな住まい・まちづくり推進会議
- 後援：国土交通省、大阪府、住宅金融公庫、日本経済新聞社
- 開催テーマ：「まちの遺伝子を活かす」～地元の熱意と人のネットワークを活かした住まいづくり～

[第1日目 10月12日(木)] 会場：大阪市立住まい情報センター 3階ホール

- 13:00～13:30 受付
- 13:30～14:10 開会
主催者（協議会会長・大阪市長）挨拶
来賓（国土交通省、豊かな住まい・まちづくり推進会議）挨拶
地域住宅計画賞授与式
- 14:10～14:20 大会趣旨説明
- 14:20～14:40 まちあるき説明
- 14:40～17:00 まちあるき（平野郷地区）
地下鉄谷町線を利用して見学

[第2日目 10月13日(金)] 会場：大阪市立住まい情報センター 3階ホール

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:10 開会 主催者（大阪市）挨拶
- 10:10～10:30 報告 内田 晃 氏（北九州市立大学都市政策研究所講師）
- 10:30～11:40 基調講演 谷 直樹 氏（大阪市立大学大学院教授）
- 11:40～14:00 「大阪くらしの今昔館」の見学（各自昼食）
- 14:00～16:00 活動報告 松村 長二郎 氏 平野郷 HOPE ゾーン協議会会長
鶴飼 正彦 氏 空堀地区 HOPE ゾーン協議会会長
パネルディスカッション
テーマ：「まちの遺伝子を活かす～地元の熱意と人のネットワークを活かした住まいづくり～」
コーディネーター 高田 光雄 氏 京都大学大学院教授
パネリスト 弘本 由香里 氏 大阪ガス(株)エネサ-文化研究所客員研究員
秋田 光彦 氏 上町台地マイルド HOPE ゾーン協議会事務局長
小林 郁雄 氏 NPOきんもくせい代表
- 16:00～16:15 次期開催団体挨拶 富山市
閉会

■会場のご案内

大阪市立住まい情報センター 3階ホール

大阪市北区天神橋6丁目4-20

TEL06-6242-1160

<http://www.sumai.city.osaka.jp/>

地下鉄谷町線「天神橋筋六丁目」駅下車

3号出口より地下通路連絡

JR大阪環状線「天満」駅から北へ徒歩7分



地域住宅計画全国シンポジウム

2006 大阪大会

2006.10.12(木)～13(金)

[開催テーマ]

まちの遺伝子を活かす

～地元の熱意と人のネットワークを活かした住まいづくり～

[大会趣旨]

「地域特性を踏まえた住まいづくり」の推進には、その地域の持つ、これまで引き継がれてきた歴史的・文化的な雰囲気やまちなみなどのハードと、その地域に住まわれている方の地域に対する愛着やまちづくりに対する熱意、住民相互のネットワークなどのソフトの両面が備わった「まちの遺伝子」の活用が不可欠です。

「地域住宅計画全国シンポジウム2006大阪大会」では、「まちの遺伝子を活かす～地元の熱意と人のネットワークを活かした住まいづくり～」をテーマにまちの元気と魅力を引き出す住まいづくりを推進しようとするものです。

会場／大阪市立住まい情報センター

主催／地域住宅計画推進協議会、大阪市

共催／豊かな住まい・まちづくり推進会議

後援／国土交通省、大阪府、住宅金融公庫、日本経済新聞社

【目次】

[表紙] 開催テーマ及び趣旨

目次 ----- ①

主催者(協議会会長・大阪市長)あいさつ ----- ②

基調講演、報告、活動報告 ----- ③

パネルディスカッション ----- ④

大阪市のHOPE計画、HOPEゾーン事業 ----- ⑤

[裏表紙] プログラム

まちなみ
修景整備
の実施状況

平野郷地区

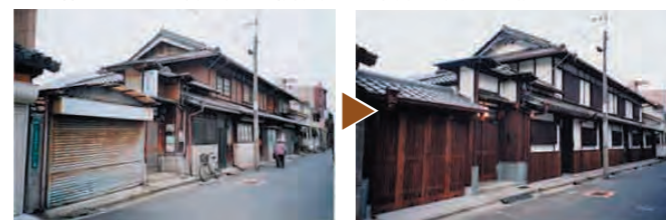
○集会施設「おも路地」の整備 <平成15年度>

既存の2軒長屋を改修して整備。通りに面した位置に平野郷のまちなみ模型を設置し、江戸期の夏祭りの風景を再現した。



○建物の修景 <平成14年度>

2階建ての5軒長屋と隣接する車庫の門の改修。



○建物の修景<平成11年度>

つし2階建て町家の店舗付き住宅の改修。



○道路の美化化<平成13~15年度>

脱色アスファルト舗装と両端部には御影石を敷き、照明灯をまちなみの雰囲気にあったものに変更し、架空線のうち道路横断線の整理を行った。



○西脇口おじぞうさん広場<平成16年度>

既存の地藏堂の周辺空地进行一体的に整備。平野郷の歴史や文化を伝える説明板を設置した。防火水槽を設けて、防災まちづくりのシンボルとした。



○建物の修景<平成17年度>

茅葺きの町家の改修。改修後店舗に活用。



まちなみ
修景整備
の実施状況

住吉大社周辺地区

○すみよし村広場の整備<平成16年度>

既存の児童公園の修景整備。各所にみどりを配置し、散歩の小道や廃材を利用した遊具やベンチを設置し、入り口には銅板葺きの門構えや解説板等を新設した。



○建物の修景 <平成15年度> 新築住宅の改修。



○集会施設 「すみよし村ぎやらりー」 <平成17年度>

大和棟の形式の町家を改修して整備。住吉の歴史や文化を伝える展示もしている。



○一三公園の整備 <平成13年度>

瓦壁を配置し、石張り・洗い出し等の舗装をし、緑の多い落ち着いた雰囲気公園に整備。



○建物の修景<平成13年度> つし2階建て町家の改修。



■□□□基調講演

テーマ「上方のまちを支えてきた歴史の知恵」

○講演者プロフィール 谷 直樹 (たに なおき)

大阪市立大学大学院教授、大阪市立住まいのミュージアム (大阪くらしの今昔館) 館長



誕生年 : 1948
学位 : 京都大学工学博士
最終学歴 : 京都大学大学院工学研究科博士課程建築学専攻
専門分野 : 住文化史
資格 : 学芸員
ホームページ : <http://architecture.fc2web.com/>

- メッセージ: 大阪や京都など上方の歴史都市にこだわって、住まいや町並みの歴史と文化を研究し、その保存と活用について考えています。とくに江戸時代の上方には、都市生活を豊かにするさまざまな仕掛けや知恵が存在しました。外国の知恵を熱心に学ぶ日本人も、意外に日本については知らないようです。未来のH O P E計画を考えるために、もう一度日本の都市生活の伝統を振り返って、歴史の知恵に学んでみては如何でしょうか。基調講演のあとで、私が館長を勤める「住まいのミュージアム・大阪くらしの今昔館」の展示場を見学していただくと、「上方の町をささえてきた歴史の知恵」への理解がよりいっそう深まります。
- 研究テーマ: 1. 大阪都市住宅史の研究 / 2. 都市祭礼と町家に関する研究 / 3. 大阪蔵屋敷の研究 / 4. 中井家大工支配の研究 / 5. 歴史的町並みの保存に関する研究 / 6. 歴史系博物館の研究
- 最近の主な著書: 1. 『中井家大工支配の研究』谷直樹著, 思文閣出版, pp.1-341, 1992.2 / 2. 『都市の交流と文化』谷直樹編著, 堺市博物館, pp.1-118, 1981.10 / 3. 『ものの建築史・便所のはなし』谷直樹・遠州敦子著, 鹿島出版会, pp.1-118, 1986.12 / 4. 『まち祇園祭すまい—都市祭礼の現代—』谷直樹・増井正哉編著, 思文閣出版, pp.1-198, 1994.7 / 5. 『住まいのかたち 暮らしのならい』谷直樹・増井正哉・中嶋節子編著, 平凡社, pp.1-108, 2001.4 / 6. 『大工頭中井家建築指図集—中井家所蔵分—』谷直樹編著, 思文閣出版刊, pp.1-388, 2003.2 / 7. 『町に住まう知恵—上方三都のライフスタイル—』谷直樹著, 平凡社, pp.1-357, 2005.4
- 作品: 1. 大阪市立住まいのミュージアム展示設計監修 / 2. 宇和町民具館基本・展示設計 / 3. 大倉記念館建築設計及び展示設計 / 4. 堺市博物館展示設計

□■□□報告

テーマ「H O P E計画策定を契機として組織されたまちづくり活動組織の継続性」

○講演者プロフィール 内田 晃 (うちだ あきら) 北九州市立大学都市政策研究所講師



誕生年 : 1970年
学位 : 博士 (人間環境学)
最終学歴 : 九州大学大学院人間環境学研究科都市共生デザイン専攻博士課程
専門分野 : 都市計画、住環境、交通政策
ホームページ : <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

- メッセージ: 学生時代に福岡県山田市 (現: 嘉麻市) でのH O P E計画策定に携わるとともに、その後3年間の推進事業のお手伝いをしてきました。その時に協働して事業を進めたのが地域の住宅関連従事者で構成された「山田市住宅研究会」という活動組織でした。H O P Eで計画されたものを形にしていけるプロセスではこのようなまちづくり活動組織が大きな役割を担っており、またその組織が継続することがまちづくりの成功の大きな鍵になっていると言えます。本報告では全国の市区町村から得られたアンケート調査を元に、H O P Eを契機として発足した活動組織の継続要因について考えるとともに、H O P E計画の推進においてどのような効果があったかについて検証します。
- 主な著書: 「Live 福岡 ひと・いえ・まち」(共著, 福岡県建築住宅センター, 1999年) / 「中心市街地再生と持続可能なまちづくり」(共著, 学芸出版社, 2003年) / 「住みよい都市—全国主要都市の比較調査—」(共著, 共同通信社, 2004年)
- 主な研究論文: 「街区・道路特性による密集市街地の評価と市街地再編に対する提案—北九州市におけるケーススタディ—」(日本建築学会技術報告集第10号, 2000年6月) / 「旧産炭地域における地域振興政策の評価と住環境改善方策—福岡県筑豊地域と北海道空知地域の比較を通じて—」(日本建築学会計画系論文集, 2006年6月) / 「H O P E計画策定を契機として組織されたまちづくり活動組織の継続性と評価」(日本建築学会計画系論文集, 2006年10月)
- 主な社会活動: 山田市まちづくり専門員 (1996年4月~1999年3月) / 北九州都市圏広域行政計画策定委員 (2000年6月~2001年4月) / 北九州市「美術館のあり方検討市民会議」委員 (2005年7月~2005年12月) / 九州大学工学部建築学科非常勤講師 (2005年10月~)

□□■□活動報告

○松村 長二郎 (まつむら ちょうじろう) 平野郷H O P Eゾーン協議会会長。

南海電鉄平野線の駅舎保存運動を契機に、平野の町づくりに関わる。50年にわたり記録した平野の風物や行事を映像と写真で一般公開している。



○鶴飼 正彦 (うがい まさひこ) 空堀地区H O P Eゾーン協議会会長。

空堀に隣接した谷町に生まれ育ち、その過去のすばらしさを活かしたいとの願いを、H O P Eゾーン事業に込める。明治10年創業の機械販売店を谷町筋沿いに営む。



□□□■パネルディスカッション

■テーマ「まちの遺伝子を活かす」~地元の熱意と人のネットワークを活かした住まいづくり~

■コーディネーター

□高田光雄 (たかだ みつお)

京都大学大学院工学研究科教授 / 博士 (工学)、一級建築士
都市住宅学会副会長、京都府建築士会副会長、京都市住宅審議会会長
1951年京都市生まれ / 1975年京都大学工学部建築学科卒業
1979年同大学大学院工学研究科博士後期課程退学 / 同大学工学部助手
1992年同大学工学部助教授 / 1998年改組により同大学大学院工学研究科助教授
2003年同大学大学院工学研究科教授、現在に至る



- 地域資源を活かし、少子高齢社会を見据えた住まい・まちづくりに関わる実践的研究を継続、複数のNPO活動にも参加。著書に、『NEXT21-その設計スピリッツと居住実験10年の全貌-』(編著)、『日本における集合住宅計画の変遷』(編著)、『少子高齢時代の都市住宅学』(編著)、『体験!まちづくり学習』(編著)、『マネジメント時代の建築企画』(編著)、『まちに住まう—大阪都市住宅史—』(共著)、『京の町家考』(共著)、『町家型集合住宅』(共著)など。作品に『実験集合住宅NEXT21』、『ふれっくすコート吉田』など。受賞に日本建築学会賞(論文)、同作品選奨、都市住宅学会賞論文賞、同論説賞、日本都市計画学会関西まちづくり賞、日本計画行政学会計画賞、日本建築士会連合会賞(業績)、同地域貢献実践活動功労者表彰、日本不動産学会業績賞、The 2005 World Sustainable Building Conference Best Paper Awardなど。

■パネリスト

□弘本 由香里 (ひろもと ゆかり) 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所 客員研究員

- 経歴: 筑波大学芸術専門学群卒業、住宅建築専門誌『新住宅』編集員等を経て、1992年から現職(大阪ガスエネルギー・文化研究所客員研究員)。大阪市立住まい情報センターの開設に関わり、現在は事業推進アドバイザーとして運営をサポート。1998年から2006年まで立命館大学政策科学部非常勤講師も兼務。
- 研究領域: 生活・文化の視点からの住まい・まちづくり。
- 主な著書: 『大阪新・長屋暮らしのすすめ』(共著, 創元社, 2004年)、『自治都市・大阪の創造』(共著, 敬文堂, 2004年)、『シリーズ都市再生①成長主義を超えて大都市はいま』(共著, 日本経済評論社, 2005年)など。
- その他: 大阪府住宅まちづくり審議会委員、大阪市住宅審議会委員当のほか、(NPO法人)こども環境活動支援協会副代表理事など、NPOの運営やまちづくり活動にも関わる。



□秋田光彦 (あきた みつひこ) 上町台地マイルドH O P Eゾーン協議会事務局長
1955年大阪市天王寺生まれ。浄土宗大蓮寺・應典院住職。

- 上町台地からまちを考える会代表理事。
20代は「狂い咲きサンダーロード」「アイコ十六歳」などの映画プロデューサーとして活躍、97年に大蓮寺塔頭・應典院を建立、劇場型本堂を中心に、演劇や現代アート、映画など数々の芸術創造事業を展開して、「日本でいちばん若者が集まるお寺」(年間3万人)として知られる。99年大阪まちなみ賞を受賞。
共著に「NPO非営利セクターの時代」「宗教と人間の未来」など。アート・ミーツ・ケア学会理事、大阪ブランド・コミッティー委員ほか。



□小林 郁雄 (こばやし いくお) NPOきんもくせい代表、地域住宅計画スーパーアドバイザー

- 1944 名古屋市生まれ 1967 神戸大学工学部建築学科卒業 TEAM・UR 同人
- 1969 大阪市立大学工学研究科修士(都市計画専攻)修了
- 1986 株式会社コー・プラン設立、代表取締役
- 現在 神戸山手大学 教授
阪神・淡路大震災記念 人と防災センター 上級研究員
神戸大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク世話人
特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所 理事長
阪神・淡路大震災記念協会推進委員・震災復興誌編集委員

- 専門分野: 都市計画・設計(まちづくりのコンサルタント・プランナー・プログラマー・マネジャー)
- 業務: 神戸アイランド、ハーバーランド、神戸東部新都心(HAT神戸)計画など、神戸の水際地区計画や神戸震災復興緊急事業計画調査、神戸市コンパクトシティ構想、震災復興総括・検証など震災復興にとりくんでいる。



大阪市のHOPE計画

大阪市では、「都市居住の魅力の創出とその活性化」を基本理念に「大阪市HOPE計画」を昭和61年に策定し、「都市型集合住宅開発設計競技（コンペ）」、「大阪・都市住宅史」の発行、大阪市内で建設された魅力ある良質な都市型集合住宅を表彰する「ハウジング・デザイン賞」、特色ある居住地の形成を図る「HOPE

ゾーン事業」などの具体的な事業を実施してきています。また、大阪市の都市居住魅力を戦略的に高めていくため、本年6月に民間有識者等で構成する「都市居住魅力戦略推進会議」を設置し、HOPEゾーン事業の全市的な展開や、魅力ある居住地づくりを進める地域との連携方策、居住地魅力の情報発信等のハード・ソフト両面にわたる取り組みの検討を行っています。

HOPEゾーン事業

(街なみ環境整備事業)

HOPEゾーン事業は、地域歴史や文化、まちなみ等、地域の魅力と特性を活かした居住地形成をめざすもので、地域住民と協力しながら、質の高い住宅建設や緑化・景観整備等を誘導し、特色ある居住地の形成を図ろうとするものです。平成18年度現在、平野郷地区、住吉大社周辺地区、空堀地区において実施しており、事業内容としては、建物の修景補助事業、公共施設の修景整備、まちづくり協議会への活動助成を行っています。また、上町台地地区でも、本年6月に「上町台地マイルドHOPEゾーン協議会」が設立され、事業展開が始まっています。



地域住宅計画推進協議会会長
大阪市長
關 淳一

ごあいさつ

「地域住宅計画全国シンポジウム2006大阪大会」に、全国各地からご参加いただいた皆様方を心から歓迎申し上げます。

少子高齢化が進み、人口の減少など社会の大きな変化とともに、市民のライフスタイルや「居住」に対するニーズはますます多様化、高度化し、真に豊かさを実感できる快適な住まいと魅力あるまちづくりが求められています。

先般制定された「住生活基本法」にも、「地域特性に応じて住民が誇りと愛着をもつことのできる良好な住環境の形成」という基本理念が掲げられ、より快適で住みよい魅力的なまちを創出するためには、各地方自治体において、その地域の特性を最大限に活かし、まちづくりを進めていくことが最も重要であると存じます。

大阪市におきましても、地域のアメニティ資源を活用した住宅づくりを進める「HOPEゾーン事業」や密集市街地の整備など、地域の特性を活かした施策を積極的に推進しており、ここに地方自治体やコンサルタントなどが相互に地域特性を踏まえた住まいづくりに関する情報交換や連携強化を行う「地域住宅計画推進協議会」の第1回大会を開催できますことは誠に光栄に存じます。

本大会では、「まちの遺伝子を活かす」をテーマとして、地域の歴史・文化・コミュニティを活かした居住地づくりに熱心に取り組んでおられる方々から活動や事業の現状をご報告いただくとともに、今後の事業や活動の展開について、学識経験者の方々も交えて幅広い論議を行っていただきます。

本大会が実り多いものとなりますよう、また、本協議会のますますの発展と皆様方のご健勝、ご活躍をお祈り申しあげまして、ご挨拶いたします。

【事業の流れ】



まちなみ修景整備の実施状況 空堀地区

○建物の修景<平成17年度>
つし2階建て長屋の店舗の改修。



○建物の修景<平成17年度>
2階建て町家の改修。



○建物の修景<平成17年度>
箱軒タイプの町家の改修。

